

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)茨木市沢良宜浜1丁目計画	階数	地上14F
建設地	大阪府茨木市沢良宜浜1丁目78番1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	789 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年1月16日
敷地面積	6,310 m ²	作成者	株式会社 IAO竹田設計
建築面積	1,471 m ²	確認日	2019年1月16日
延床面積	20,495 m ²	確認者	株式会社 IAO竹田設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 居住者と環境にやさしい建物の計画であり、緑との調和を意識した住みやすい設計となっている。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 高遮音の建具の採用、断熱性能等級4の取得、大開口で自然換気性能が高い、など居住者が過ごしやすい室内環境に配慮した設計となっている。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い建材を採用している。階高を高くとり、ゆとりある空間の形成に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 良好な緑地計画や敷地内にベンチを設置するなど、自然に親しめる環境の確保に努めている。
LR1 エネルギー 断熱性の高い断熱材を適切に施工し外皮の熱負荷を、複層ガラスにより冷暖房負荷を低減させている。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材を使用した建材を採用し、地球環境に配慮している。	LR3 敷地外環境 省エネルギー性能向上に努めることで、建物から排出されるCO ₂ を抑制し、地球温暖化の抑制に寄与している。居住者の適切な量の駐車スペースを確保し、周辺道路の渋滞や路上駐車に配慮した計画となっている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0152

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)茨木市沢良宜浜1丁目計画 新築工事							
	建設地	大阪府茨木市沢良宜浜1丁目78番1他							
	用途/区分	集合住宅							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			3					
②	みどり・ヒート アイランド対策			3					
③	建物の断熱性			4					
④	エネルギー削減			3					
⑤	自然エネルギー直接利用			○					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	4.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.3	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項	遮音、採光、換気に配慮し室内環境の向上を図り、居住者の住みやすさが考慮された設計となっている。高断熱の断熱材や、複層ガラスの採用など熱負荷低減に努めている。良好な緑地計画や外構計画により、地域性・快適性の向上を図っている。	